



会派『千葉新政策議員団』代表 千葉県議会議員 我孫子市選出

水野ゆうきの
ゆう can Change!
vol.58

みずの 水野 ゆうき 無所属

9月定例千葉県議会にて『千葉新政策議員団』は会派代表質問で、千葉県が抱える課題について、質疑・提言を行いました。

千葉県内学校の熱中症対策の推進を！～児童生徒の救急搬送増加～

課題 近年、学校の管理下における熱中症は、小・中・高等学校等を合わせると毎年5,000件程度発生しています。学校での熱中症による死亡事故は、ほとんどが体育・スポーツ活動によるものです。

我が会派の質問により、**本年5月～9月の間、千葉県内の学校において熱中症で救急搬送された児童生徒数は67人**であり、県内の自治体においては、**約半数しか熱中症対策ガイドラインを策定していないこと**が明らかになりました。

災害級の暑さが続き、熱中症発生が増加している状況に応じて、ガイドラインの策定や適宜、体制の見直し等が必要であり、基本的な熱中

症対策について学校・児童生徒・保護者が一丸となって共通認識を持ち、児童生徒の安全を守っていかなくてはなりません。

質問 地域別の暑さの特徴を考慮し、各自治体や各学校が暑さ指数などを活用したガイドラインの策定を促すべきではないか。

教育長答弁 県教育委員会では、各学校において近年の猛暑を考慮した実践的予防措置や行動手順をより明確にしておく必要があると考えており、各自治体に対し、地域の実情や学校の実態に応じたマニュアル等の整備や見直しを促していく。

東京都への財源集中による地域間格差・人材流出が深刻化

課題 税収に恵まれている東京都は、高校授業料実質無償化などの施策を打ち出し、本来居住する地域に関わらず全国一律で実施されるべき子ども施策について、近年、周辺自治体との地域間格差が拡大しています。さらに、東京都は都内の施設や事業所に勤務する介護職員又は介護支援専門員に対して都独自の処遇改善を実施するなど、東京都と隣接している東葛飾地域では介護人材の流出が懸念されます。国の責任と財源で必要な措置を講じることや、自治体間の税源の偏りを抑える地方税の仕組みを構築することが求められています。

質問 東京都への財源集中が懸念されるが、今後、千葉県としてどう取り組んでいくのか。

熊谷知事答弁 全国知事会議において行政サービスの地域間格差が過度に生じないように、税源の偏在性が小さく税収が安定的な地方税体系を構築することについて議論が行われ、国に対する提言を決議した。また、首都圏にあって共通の課題を抱えている埼玉県と神奈川県との知事とともに、関係大臣に直接独自の要望活動を実施した。今後も税源の偏在是正など地方税財源の充実・強化を働きかけていく。

手賀沼の外来水生植物対策、予定通り年度内駆除完了へ！

背景 令和6年度当初予算にて前年度より大幅に増額していただいた特定外来水生植物対策事業では、トータル約7億2千4百万円のうち、湖沼における外来水生植物対策事業として、印旛沼及び手賀沼とその流域河川において約3億5千4百万円が計上されています。我が会派の2月議会代表質問において、熊谷知事からは速やかな防除を進めるため、駆除工程を見直して計画を前倒しし、令和6年度中に一通りの駆除を終える予定である、といった主旨の答弁がありました。

質問 計画を前倒しして、今年度中に一通りの駆除を終える予定の予算を組んでいるが、進捗状況と見通しはどうか。

熊谷知事答弁 手賀沼とその流域河川では、昨年度末までに駆除対象面積約10万㎡のうち約6割の駆除を終え、今年度は沼の東部や手賀川等約3万9千㎡について5月から駆除を進めているところ。手賀沼、印旛沼のいずれについても今年度中には当初計画していた面積について一通りの駆除を終える予定。今後も、県の水草刈取船による駆除と市民団体によるきめ細かい作業を組み合わせた効果的な駆除により、外来水生植物の繁茂の拡大防止に努める。

水野ゆうきも市民団体の駆除活動に参加しています。📍

